一戸建ての住宅（住戸部分）用（新築）

|  |  |
| --- | --- |
| 住戸番号 |  |
| 建築物の名称 |  |
| 建築物の所在地 |  |
| 設計者氏名 |  |
| 審査員氏名 | 株式会社　日本確認検査センター  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 認定事項 | 確認項目※ | 設　計　内　容　説　明　欄　　　※ | 設計内容確認欄 |
| 項目 | 設計内容 | 記載図書 |
| ０．基本事項 | 計算方法 | 用いた基準 | □ 住宅・非住宅計算方法　□誘導仕様基準 | □計算書□ | □適 |
| 基本事項 | 地域の区分 | □　１地域　　□　２地域　　□　３地域□　４地域　　□　５地域　　□　６地域□　７地域　　□　８地域 |
| 年間日射地域区分 | （　　　　　）地域　注）下記設備のいずれかを設置した場合のみ* 太陽光発電を採用
* 太陽給湯設備を採用
 |
| 建て方 | * 一戸建ての住宅　　　　□　共同住宅等
 |
| 構造 | □　木造住宅（　□　軸組構法　　□枠組工法　）□　鉄骨造住宅□　鉄筋コンクリート造（組石造含む。）住宅□　その他（　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| １．躯体の外皮性能等 | 住宅・非住宅計算法 | 外皮平均熱貫流率 | 平均熱貫流率（UA） （　　　　）W/m2K | □計算書□仕上表□建具表□矩計図□ | □適 |
| 外皮平均日射熱取得率 | 冷房期の平均日射熱取得率 (ηAC)　（　　　　）暖房期の平均日射熱取得率 (ηAH)　（　　　　） |
| 誘導仕様基準 | 外皮の断熱性能等 | □外皮の熱貫流率の基準に適合□断熱材の熱抵抗の基準に適合□構造熱橋部の基準に適合（鉄筋コンクリート造等のみ） |
| 開口部の断熱性能等 | □緩和措置あり 　□外気に接する床（5％緩和）□窓の断熱（2％緩和）□窓の日射（4％緩和） |
| ２．一次エネルギー消費量 | 一次エネルギーに係る基本事項 | 外皮計算法 | □外皮面積を用いた計算法　外皮面積の合計（　　　　　　）㎡□外皮面積を用いない計算法 | □計算書□ | □適 |
| 居室等の面積・構成 | ・床面積の合計　　　　　（　　　　　）㎡・主たる居室の面積　　　（　　　　　）㎡・その他の居室の面積　　（　　　　　）㎡　 | □面積表□平面図□ |
| 通風の利用 | * 通風を利用
 | □計算書□ |
| 蓄熱の利用 | * 蓄熱の利用
 |
| 床下空間の利用 | * 床下空間を経由して外気を導入する換気方式の利用
 |
| 住宅・非住宅計算法 | 暖房設備 | ・暖房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　）・暖房機器の種別・性能等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ | □適 |
| 冷房設備 | ・冷房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　）・冷房機器の種別・性能等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |
| 換気設備 | ・換気方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　）・換気設備の性能等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）□熱交換換気設備の設置　性能等（　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ | □適 |
| 　 | 給湯設備 | □　給湯熱源機　（　　　　　　　　　　　）配管方式　　□先分岐方式　　□ヘッダー方式　　水栓　　　　□節湯水栓等を使用　　　　　　　　□台所　□浴室　□洗面　　浴漕　　　　□高断熱浴漕を使用 | □機器表□平面図□ | □適 |
| 照明設備 | □　主たる居室（　　　　　　　　　　　　　　　　）□　その他居室（　　　　　　　　　　　　　　　　）□　非居室　　（　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ | □適 |
| その他設備 | □　太陽光発電設備の設置□　コージェネレーションシステムの設置 | □機器表□ | □適 |
| 誘導仕様基準 | 暖房設備 | ・暖房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）・暖房機器の仕様等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ | □適 |
| 冷房設備 | ・冷房方式（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）・冷房機器の仕様等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） |  | □適 |
| 換気設備 | ・熱交換換気設備の有無　□有　□無・換気設備の仕様等　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　） | □機器表□平面図□ | □適 |
| 照明設備 | □　全ての照明設備がLED又は同等以上 | □平面図□ | □適 |
| 給湯設備 | □　給湯熱源機の種類等（　　　　　　　　　　　　）・所定の省エネ対策の実施　□　ヘッダー方式　分岐後配管径13A以下　□　浴室シャワーの節湯水栓等の使用　□　高断熱浴槽の採用 | □機器表□平面図□ | □適 |
| ３.その他基準（第1又は第2の　いずれかに適合) | 第1の1 | 再生可能エネルギー利用設備の設置 | ・再生可能エネルギー利用設備が設けられていること□太陽光発電設備□風力・水力・バイオマス等の発電設備□太陽光・地中熱利用設備□河川水熱等を利用する設備□薪・ペレットストーブ等の熱利用・一戸建ての住宅の場合は以下に適合□低炭素化促進設計一次エネルギー消費量が低炭素化促進基準一次エネルギー消費量を超えないこと。 | □機器表□平面図□ | □適 |
| 第１の2（右記項目のうち1項目以上適合） | 節水措置 | □　節水便器の設置□　節水水洗の設置□　電気食器洗い機の設置 | □機器表□平面図□ | □適 |
| 雨水等の利用 | □　雨水利用□　井戸水利用□　雑排水利用 |
| 一次エネ削減 | □　ＨＥＭＳの採用 |
| 蓄電池使用 | * 再生可能エネルギーと連系した定置型蓄電池の採用
 |
| ヒートアイランド対策 | 敷地緑化等□　緑地又は水面の面積が敷地面積の１０％以上 |
| 敷地の高反射性塗装□　日射反射率の高い塗装の面積が敷地面積の１０％以上 |
| 屋上緑化等□　緑化を行う又は日射反射率等の高い屋根材を使用する面積が屋根面積の２０％以上 |
| 壁面緑化等□　壁面緑化を行う面積が外壁面積の１０％以上 |
| * 緑化等面積率＋日射反射面積率＋屋根緑化等面積率×１/２＋壁面緑化面積率≧１０％
 |
| 劣化軽減 | □　劣化対策等級３以上 |
| 木造住宅・建築物 | □　木造住宅 |
| 高炉セメント等の利用 | □　高炉セメント使用の有無□　フライアッシュセメント□　高炉スラグ又はフライアッシュを混和材として利用 |
| 電気自動車充放電設備の設置 | * 電気自動車等と建築物間で充放電等するための設備を設置
 |
| 第２ | 総合的な環境性能評価 | □　所管行政庁の認めるもの（　　　　　　　　　　　　　　　　） | □ | □適 |
| 基本方針 |  | 都市の緑地の保全への配慮 | □都市緑地法に定める「緑地保全地域」に適合□都市緑地法に定める「特別緑地保全地区」に適合□都市緑地法に定める「緑化地域」に適合□都市緑地法に定める「緑地協定」に適合□生産緑地法に定める「生産緑地地区」に適合□建築基準法に定める「建築協定」に適合□緑地保全に関する市町村の条例に適合□該当なし | □証明書□適合書□許可書□届出書□ | □適 |
| 資金計画 |  | 建築に係る資金計画 | （　　　　　　　 　万円） | □申請書 | □適 |